

この建物は、銀座と共に発展し二〇一二年に創業一四〇周年を迎えた資生堂が唱える「資生堂―銀座未来計画」の最終章として建設され、「美しい生活文化の創造」をテーマに、未来に向けた「新しい価値の創造拠点」と「文化の受発信拠点」を創出している。

外観は、企業の価値観のデザイン表現として「未来唐草」と名付けられたアルミキャストのシェードで覆われ、並木通りの中で圧倒的な存在感を示しながら、季節や時間の変化により豊かな表情を醸し出している。シェードは、直達日射量の抑制により空調負荷を低減し、自然光を反射させて和らげ、環境性能と室内の快適性向上にも寄与している。また、複雑な三次元形状を持つアルミキャストの製造とシェードユニットの組み立て、取り付けに際しては、3D構造解析をはじめ緻密な検討がなされ、高度な技術が結集されている。

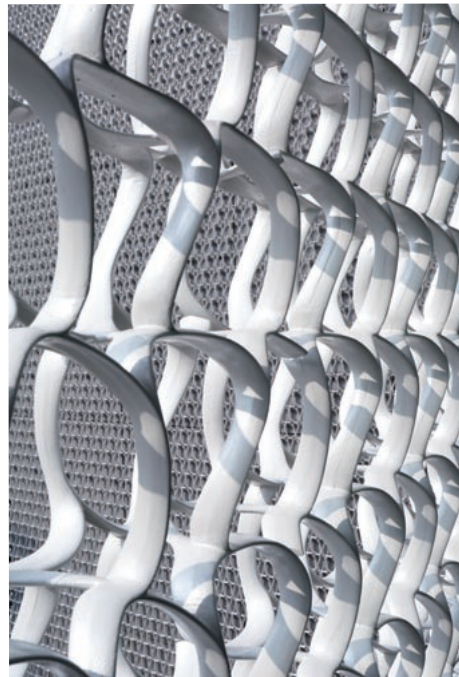
建物は、地下二階、地上一〇階、

約一万平方メートルの規模で、一〜四階は「情報・文化受発信拠点」、五〜一〇階は「価値創造拠点」となっている。一階は、並木通りの街並みに合わせ、三つの用途（オフィス・物販店舗・レストラン）が顔を出し、セットバックにより緑のオープンスペースを提供している。二階にはギャラリー、三階には約三〇〇平方メートルの花椿ホールがあり、地域との交流の場となっている。五〜一〇階の創発型ワークプレイスには、光庭を介したクリエイティブスペース、二層吹き抜けのナレッジスタジアムなどのコミュニケーションを誘発する仕掛けが施されている。屋上は「鎮守の杜」「語らいの木陰」「知見の水辺」の三ゾーンに分け、積極的に利用されている。緑化の樹種は一年にわたる周辺の生きものの調査により設定した三六の誘致種が利用する植物から選定された。

銀座の中心部という地域特性による課題（余裕がない敷地、搬入



1階エントランスホール。1階は、店舗が連なる並木通りの街並みに併せて店舗とレストランへの入口となる。

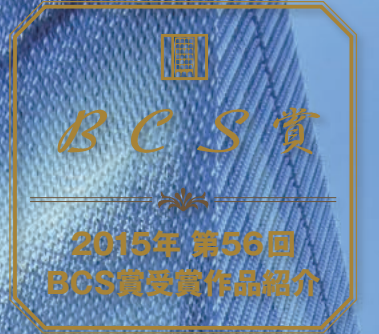


未来唐草。アルミキャストのシェード。ブランドを象徴するイメージをもとに考案された。

選評



東側夕景。



資生堂銀座ビル



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート **資生堂銀座ビル** Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- 【特別賞】上州富岡駅

建築主より

「資生堂」を感じていただけるビルに

資生堂発祥の地、銀座に建つ当ビルは価値創造の拠点としての役割に加え、訪れる方に「いかに資生堂を感じていただくか」、また同時にここで働く社員にとっては「資生堂とは何者かを感じられる」ことを意識して企画された。当社デザインの象徴である唐草文様をモチーフにした外装や花椿のマークをかたどった吹き抜け空間などの視覚的なものから、樹木選定において周辺生態系との調和を図っ

た屋上庭園や銀座の賑わいへの貢献を意識した1階路面での店舗配置やファサードなどの設計思想に至るまで、ふんだんにこの想いを盛り込んだ。これらを通じ銀座本店として恥じないものとなることのできたと自負している。そしてこれらを作り込んでいくには設計者、施工者、当社の三者の十分な意思疎通と全員の「良いビルを建てたい」との想いが欠かせなかった。全ての関係者に感謝したい。



資生堂ジャパン株式会社
コミュニケーション統括部長

小出 誠

Makoto Koide

設計者より

銀座・並木通りに新しい景色を創る

日本の文化と美意識を牽引し、常に新しい「コト」を生み出し続けてきた「銀座」と「資生堂」。その資生堂の新店として銀座・並木通りに相応しい、先進的で美しい姿、そして、約50m×50mという存在感を如何に、街並みと融合させるかを心がけた。「先進性・豊かさ・オリジナリティ」をコンセプトに、景観としての建物表現から、外装、内装からアートに至るまで、シームレスにデザインを

展開し、デザイン・技術・環境の融合によって、新しい付加価値を持つ建築の創造に挑戦した。オリジナルデザインの「未来唐草」で構成された外装は、自然光や視線の制御をしながら流麗な景色・インテリアを創出している。そしてこの価値創造拠点から生み出され、発信され続ける新しい「コト」が、銀座の街に未来への予兆を感じさせ、新しい息吹を与え続けてくれることを願っている。



株式会社竹中工務店
東京本店 設計部
設計1SD部長

濱野裕司

Yuji Hamano

施工者より

一緒に創り込んだからこそ、満足度が高い

資生堂創業の地かつ銀座の中心地での工事であり、歩行者や通行車両が多いことから、近隣や第三者に対し迷惑を掛けないことが最重要課題であった。既存地下解体時は構台、新築工事時は先行で構築した一階床利用し主要資材の搬出入を場内で行った。敷地一杯に建物が建つため、敷地界際の工事は鉄骨建方〜外装PC取付〜アルミシェード取付まで先行架設した垂直養生ネット内で施工し第三者に対し安心感のある工法

を実施した。外装アルミシェードについては光造形模型による形状から製造方法に至るまで建築主、設計者、施工者が一体となり創り込みを行った。内外装仕上げすべてにおいても常に三者で意見を出し合い、力を合わせて完成させた作品である。施工条件や要求など困難を極めた工事であったが、ものづくりの醍醐味をこの建築に携わった全ての人が感じた。



株式会社竹中工務店
東京本店調達部長

小野哲郎

Tetsuro Ono



3階ギャラリー。シェードの光に優しく包まれる展示スペース。1階から4階は「文化の受発信拠点」である。

【選考委員】
佐々木睦朗・宮崎 浩・小林照雄

時間の制約など）を、さまざまな工夫により克服し、安全かつ効率的な施工がなされている。複雑なディテールのアルミシェードに関しては、建築主と共に、実物大モックアップでデザイン性、メンテナンス性を確認し、風洞実験、層間変位追従試験、防汚試験などの性能検証を行い、ディテール、仕様などは慎重に決定されている。銀座の新たな顔となっているアルミシェードは、美顔と同様に、化粧品（光触媒塗料）と洗顔（年一回の清掃）で美観を保っている。建築主の企業理念である「美しい生活文化の創造」を設計者、施工者がおのおのの立場で理解し、さらに「資生堂らしさ」を土台とした「美意識」も共有することによりなし得た、完成度の高い作品である。

右／5階から10階のワークプレイス。新しい価値の創造拠点である。光庭を介してコミュニケーションを誘発する仕掛けが施されている。
左／屋上の「資生の庭」。地域との交流の場となっている。



計画概要

建築主：（株）資生堂
設計者：（株）竹中工務店
施工者：（株）竹中工務店

所在地：東京都中央区銀座7-5-5
竣工日：平成25年7月31日

敷地面積：1,1167.76㎡
建築面積：939.75㎡
延床面積：9,957.77㎡

階数：地下2階、地上10階、塔屋2階
構造：鉄骨造（柱CFT） 一部鉄骨鉄筋コンクリート造